

平成 25 年 2 月 4 日

国土交通省 九州地方整備局

大隅河川国道事務所

記者発表資料

東九州自動車道(鹿屋～曾於)橋梁工事において、杭位置が規格値を満足していない杭が確認されましたので報告します。

- ・平成25年1月11日、串良川橋A2橋台の基礎杭(場所打杭)において、受注者から杭位置が規格値を超えている(ズれている)杭があるとの報告がありました。[資料1](#)
- ・当事務所では、事実関係を確認したところ、杭芯がズれて橋台底版端との距離が確保できていないことを確認しました。[資料2](#)
- ・このため、改めて構造計算・応力照査を行い、また学識者にも助言を頂き、橋台底版部を拡幅(670mm)することで安全性を確保できることを確認しました。[資料3](#)、[資料4](#)
- ・今後の工事につきましては、安全施工に留意し、出来形・品質等の施工管理をより一層徹底していきます。
- ・なお、杭位置がズれた原因は、受注者の測量ミスによるものであることから構造計算や応力照査費用及び増工費用については受注者の負担となります。

<お問い合わせ先> 国土交通省 九州地方整備局 大隅河川国道事務所

TEL 0994-65-2541 (代表) URL: [http:// www.qsr.mlit.go.jp/osumi/](http://www.qsr.mlit.go.jp/osumi/)

技術副所長 山田 隆則 (内線 205)

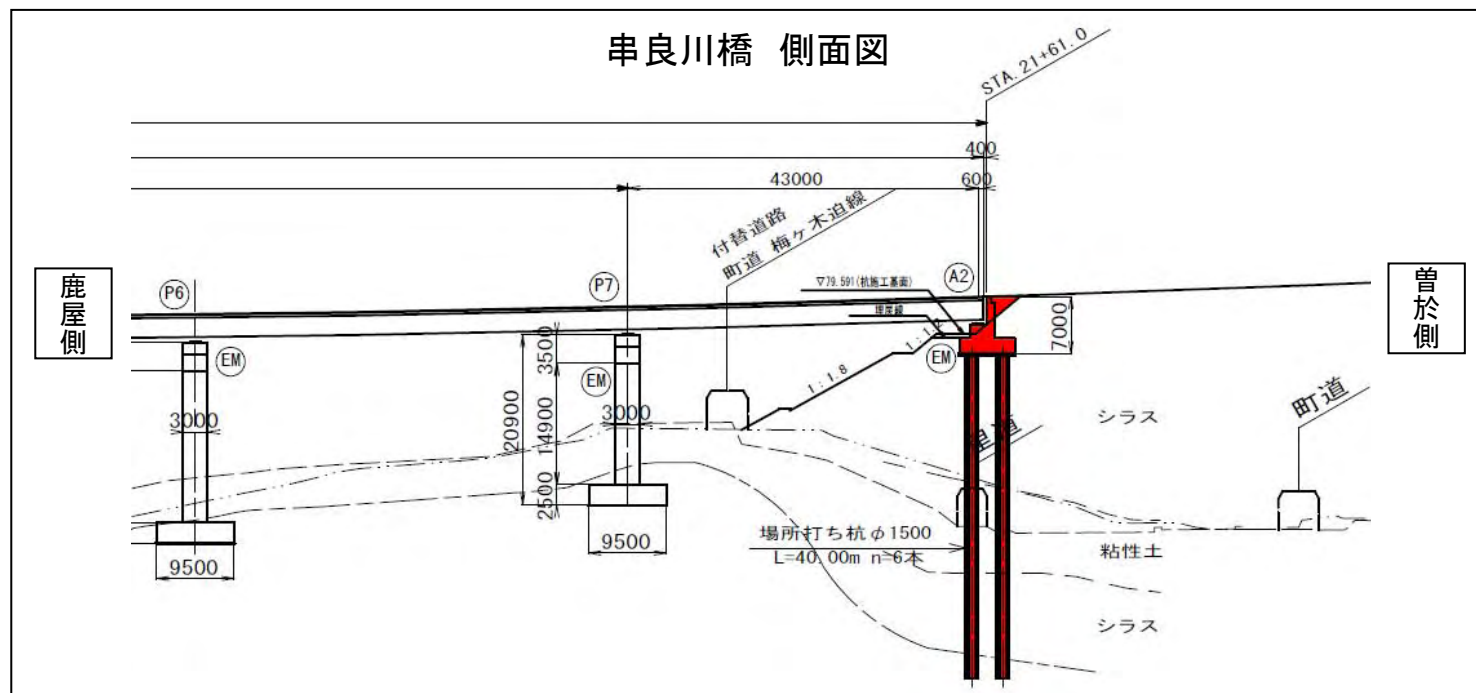
工務第三課長 園田 宣昭 (内線 411)

【位置図】



【工事概要】

- 工 事 名 : 東九州道（鹿屋一曾於）細山田橋下部工外改良工事
 工事場所 : 鹿児島県鹿屋市串良町細山田地内外
 工 期 : 平成24年2月22日 ~ 平成25年3月25日
 請負業者 : 福地建設(株)
 工事内容 : 橋梁下部
 串良川橋 A2 橋台（場所打杭6本 $\phi 1500$ L=40m）
 細山田橋 A1・A2 橋台



【串良川橋 A2 橋台の杭の状況】

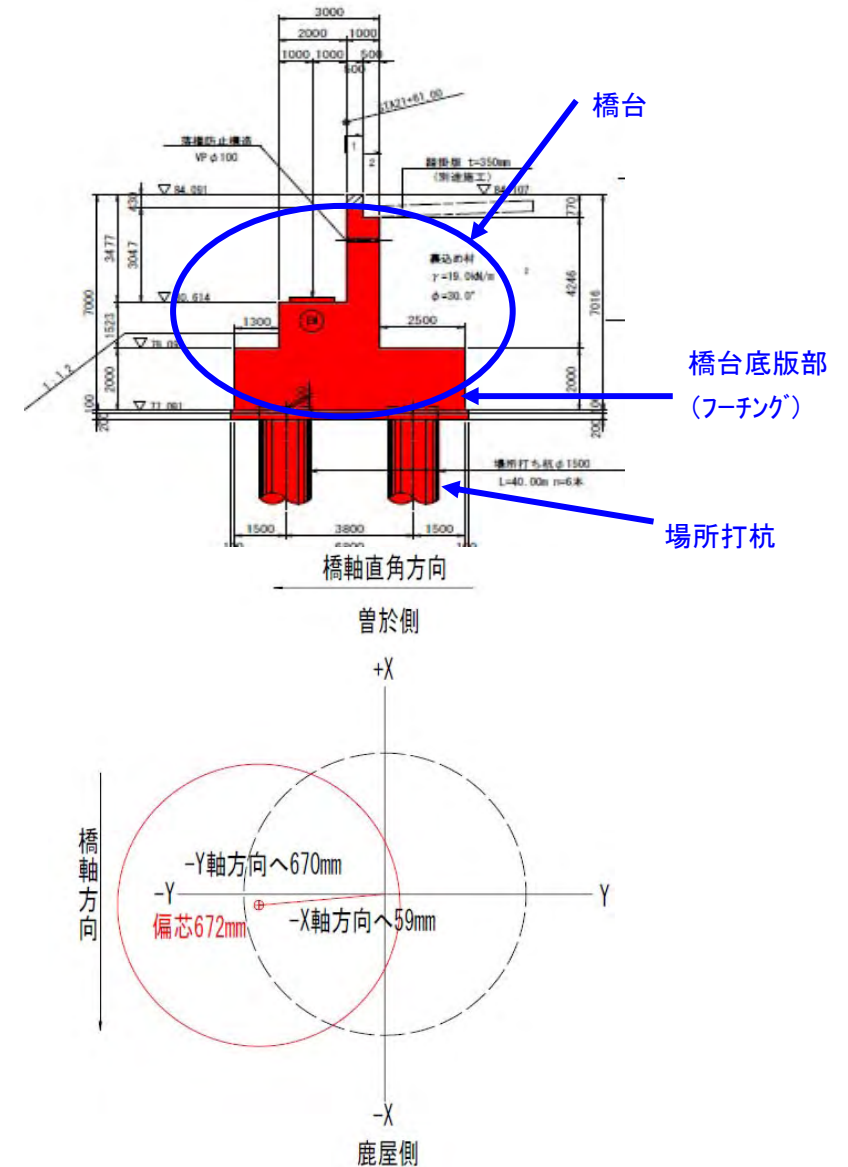
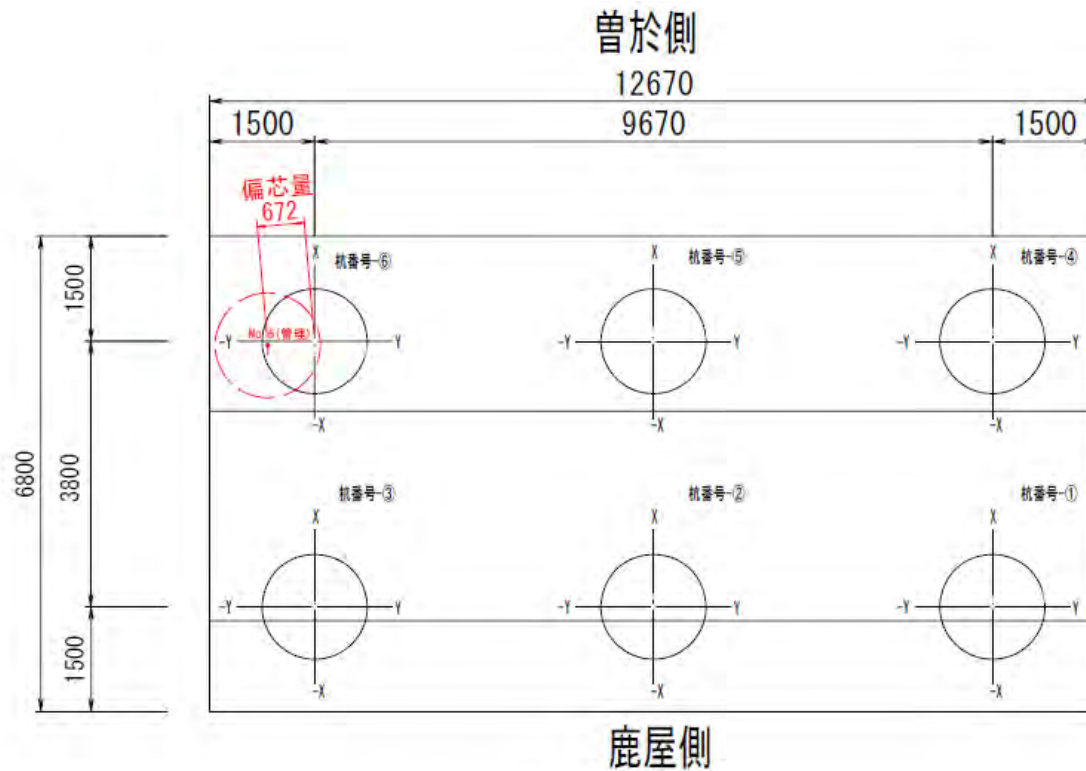
杭の出来形不適合

串良川橋 A2 橋台 No. 6 杭のズレ

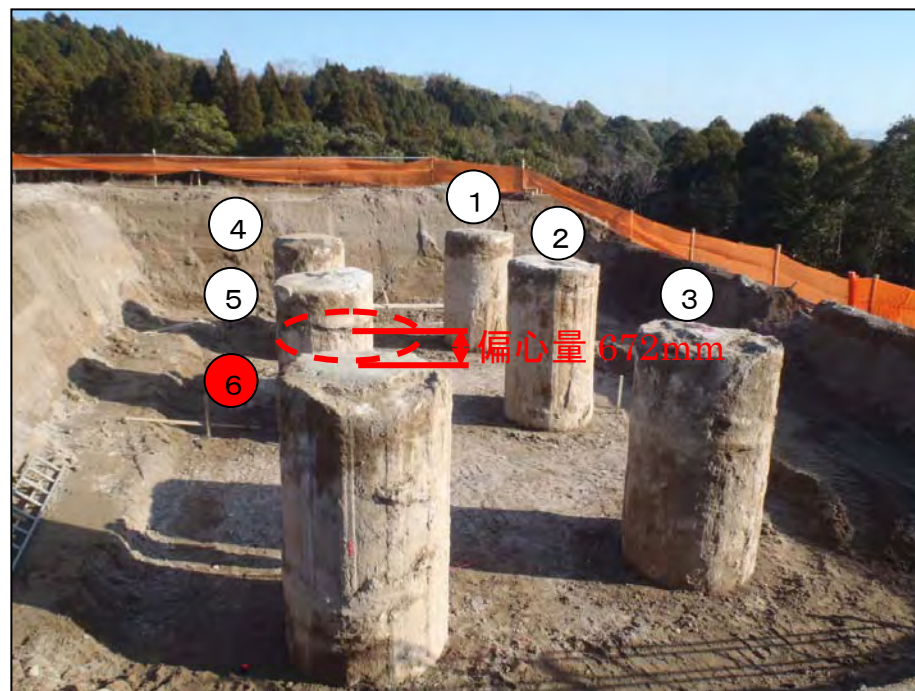
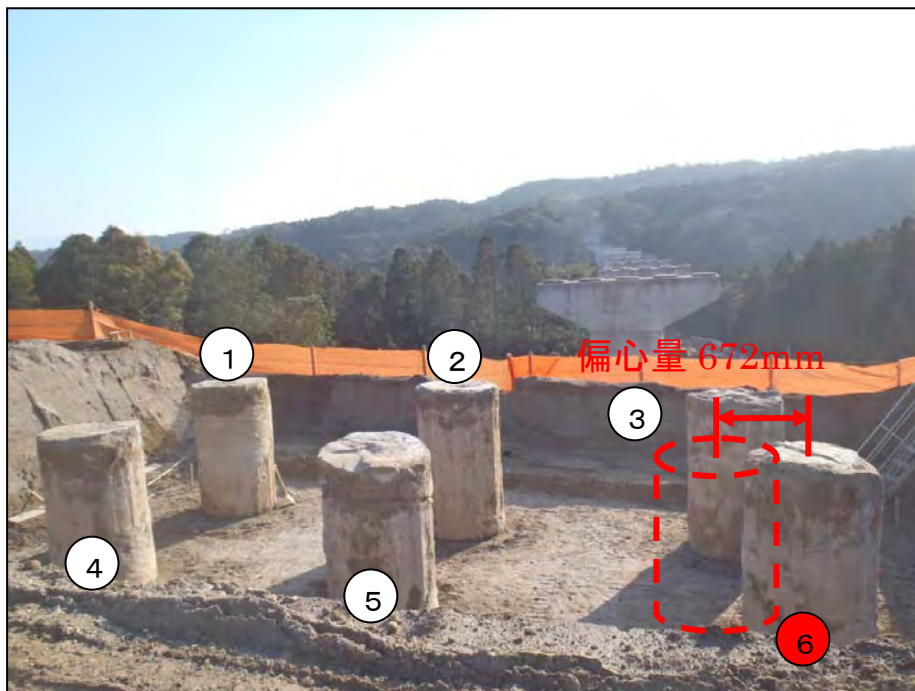
X = 59mm Y = 670mm 偏芯量 = 672mm (規格値 100mm 以下)

計算式 偏芯量 = $\sqrt{X^2 + Y^2}$

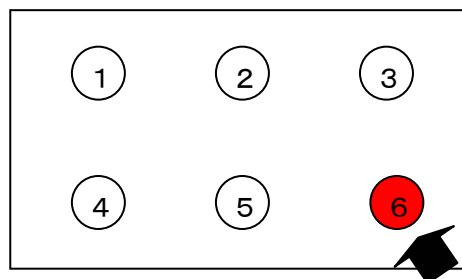
赤字方向のズレ (下記図面参照)



【現場状況】

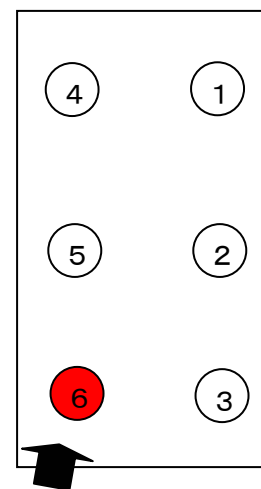


鹿屋側



曾於側

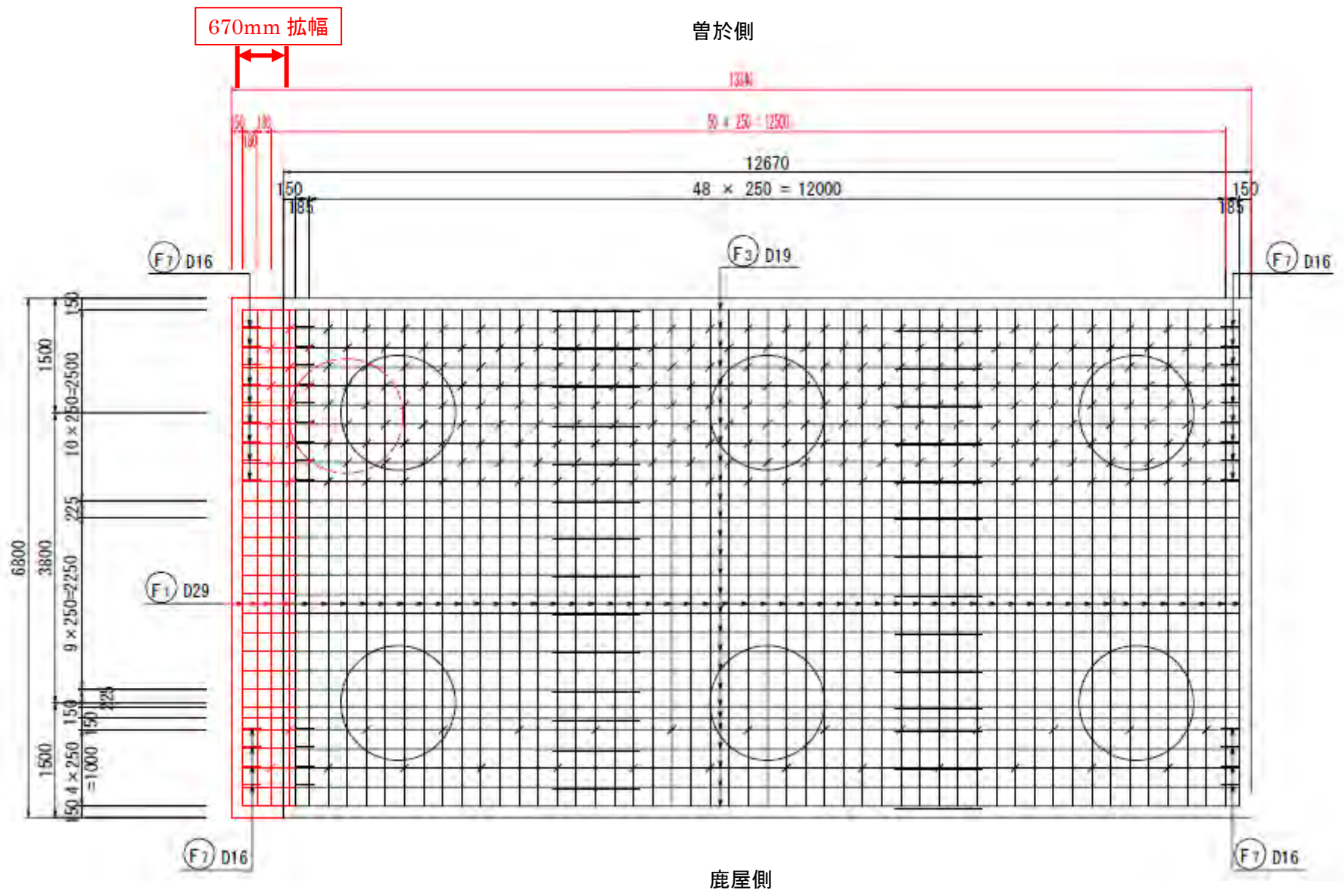
曾於側



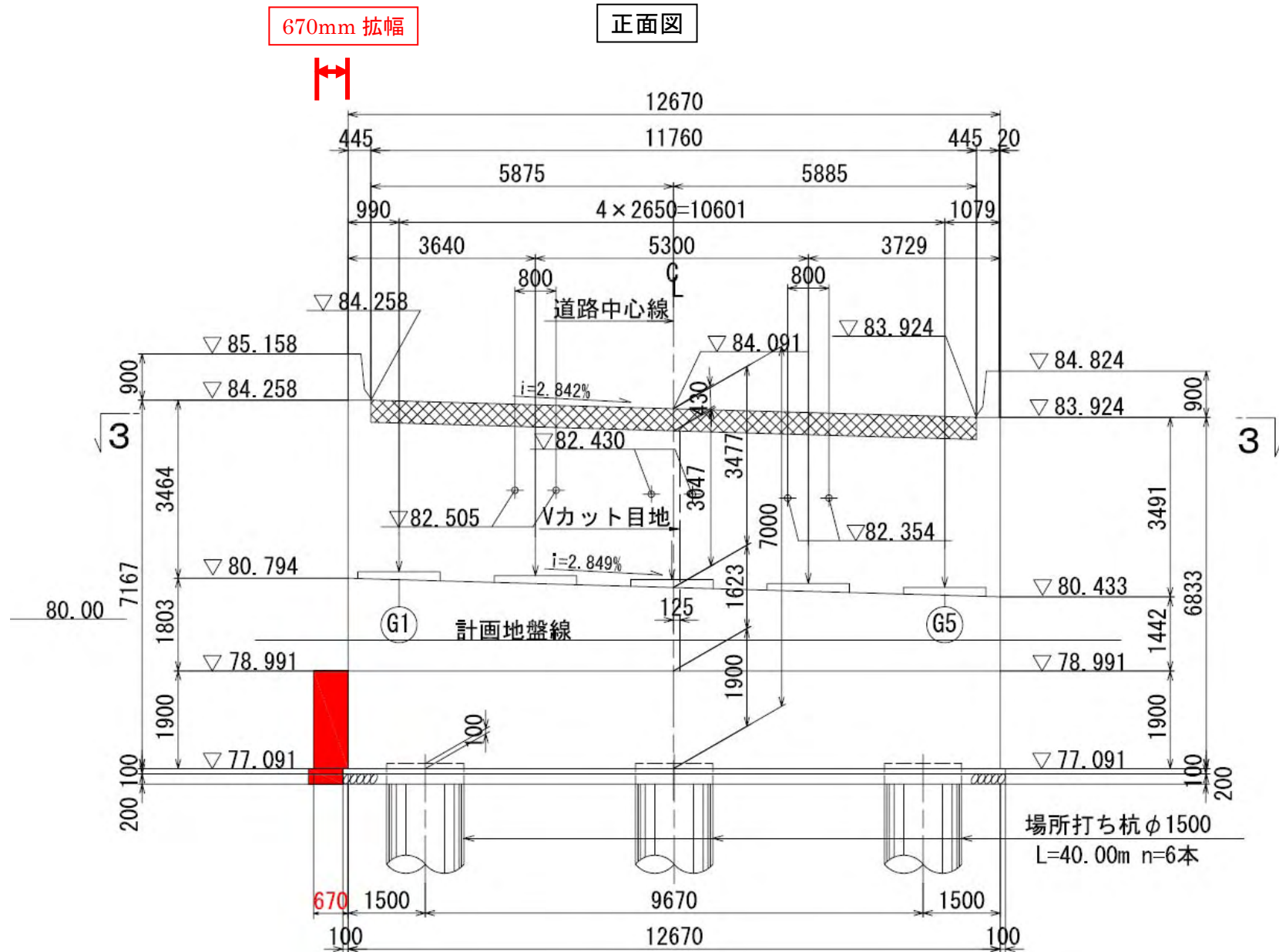
鹿屋側

【串良川橋 A2 橋台底版部の拡幅】

平面図



【串良川橋 A2 橋台底版部の拡幅】

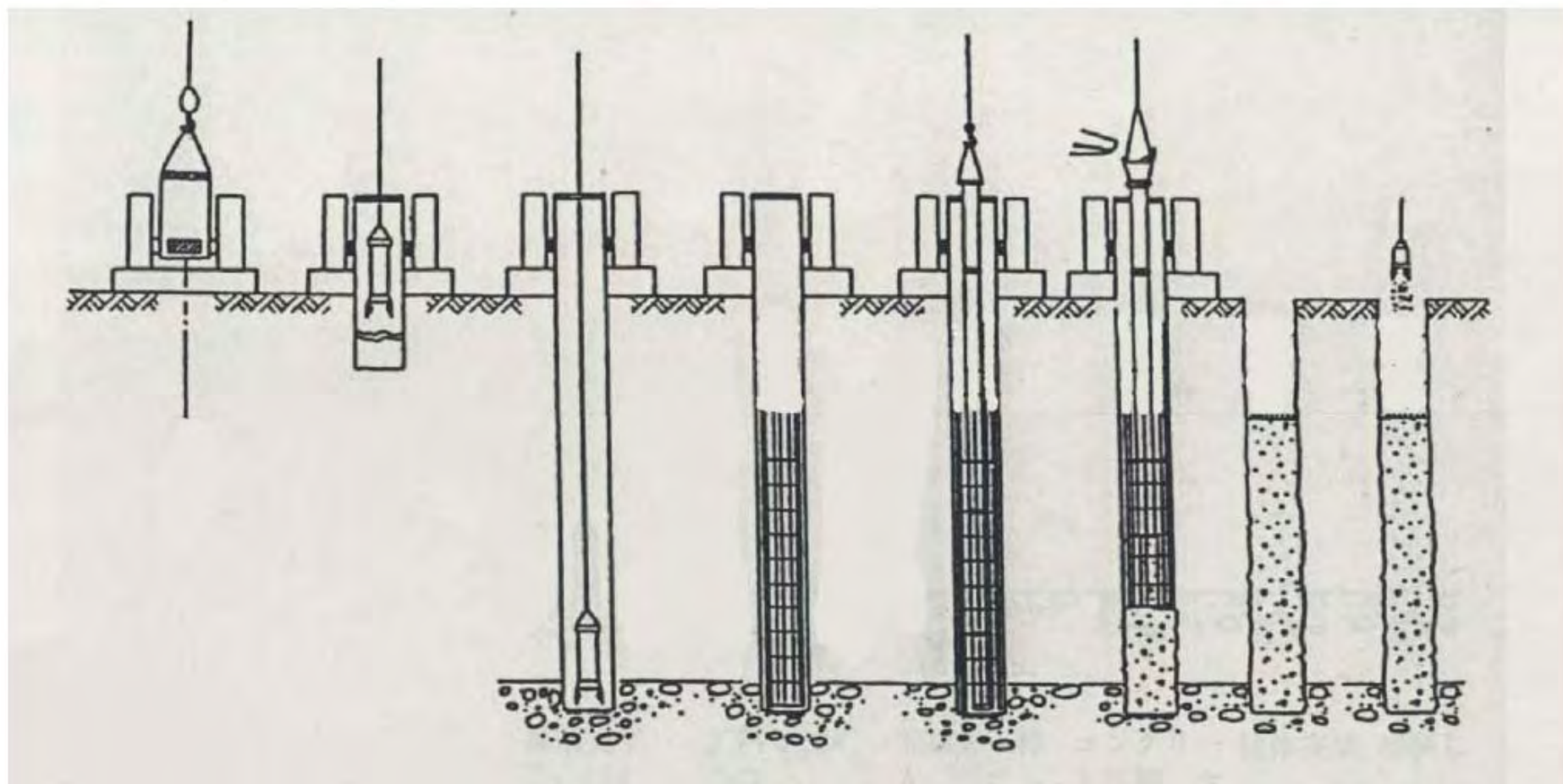


【経緯及び対応】

○串良川橋 A2 橋台

| | |
|-------------|--|
| 平成24年11月30日 | 串良川橋 A2 橋台 (No. 1~No. 6) 場所打杭の施工位置確認 |
| 平成24年12月 8日 | 場所打杭施工開始 杭 No. 1 |
| 平成24年12月14日 | 杭 No. 3 |
| 平成24年12月18日 | 杭 No. 4 |
| 平成24年12月22日 | 杭 No. 2 |
| 平成24年12月25日 | 杭 No. 6 |
| 平成25年 1月 5日 | 杭 No. 5 |
| 平成25年 1月10日 | 掘削施工開始 (杭 No. 6 のズレ判明) 詳細調査を実施 |
| 平成25年 1月11日 | 施工業者から当事務所に報告を受ける 当事務所は現地にて杭位置のズレを確認 |
| 平成25年 1月11日 | 設計コンサルタントへ杭位置がズレたことに関して設計照査を依頼 |
| 平成25年 1月17日 | 設計照査結果を基に学識者との打ち合わせ (1回目) 学識者：鹿児島大学大学院理工学研究科海洋土木工学専攻 武若教授 |
| 平成25年 2月 1日 | 設計照査結果を基に学識者との打ち合わせ (2回目) 学識者：鹿児島大学大学院理工学研究科海洋土木工学専攻 武若教授 |

【場所打杭工法の施工手順】



掘削機設置

ケーシングチューブ
建込み
掘削開始

掘削完了
孔底処理

鉄筋かご
建込み

トリー挿入

コンクリート打設、杭体完成
ケーシングチューブ
引き抜き

埋戻し